

能美市女性協議会とのタウンミーティング

日 時 令和6年9月4日（水）19:30～21:00

会 場 根上学習センター 講堂

参加人数 25人

1) 開会

2) 市長 市政報告

○令和6年能登半島地震

・能美市では、震度5強を観測し、住家で約1,500件、住家以外の建物で約500件、事業用資産で約200件の罹災証明書が出された。様々な被害があったが、道路で一番被害が大きかったのは、緑が丘ののり面が崩れたことによる市道崩落があげられる。この他、下水道マンホール周辺の陥没、美化センターののり面崩壊、神社の鳥居・灯籠倒壊等があった。また、産業面では九谷焼の被害が大きく、九谷焼美術館の花瓶が倒れたり、商店の棚に置いてあった商品が落ちたり、作家さんの作成途中の作品が倒れたりする被害があった。

・ワンストップ窓口を設置し、市民の皆さんが1か所で様々な手続きを行い、相談もできるように体制を整えた。

・市内には広域避難所や二次避難所、市営住宅、みなし仮設住宅、また、親戚やご友人宅に身を寄せられている避難者の方が、一番多いときで約250人いらっしゃった。情報共有や課題解消のために専門家や各種団体と避難者受入ネットワーク会議を何回も開催した。今日お越しの中にも傾聴や通院や買い物のための移送をしていただいた方も多くいらっしゃり、改めて御礼を申し上げたい。また、困りごとやご要望に対応するため、避難者生活サポート窓口を開設した。引き続き、しっかりと対応していきたいと思っているので、ぜひ女性協議会の皆さんにもご支援、ご協力をいただきたい。

・被災地への支援として、保健師や職員を派遣し、避難所の運営や壊れた家の調査を行ってきた。消防車や救急車、給水車、パッカー車の派遣も行った。市民の皆さんからご協力をいただいた様々な支援物資も能登へお届けした。

・被災地を応援するため、今年の2月に東京で開催された伝統工芸フェアの舞台上、輪島塗や珠洲焼の紹介を行うとともに、今年の九谷茶碗まつりは「頑張ろう！いしかわの伝統工芸」というキャッチフレーズの下、輪島塗や珠洲焼の販売も行った。

・根上り七夕まつりでは、御陣乗太鼓もお呼びして、能美市内で避難されていた避難所の方々にも楽しんでいただいた。また、輪島市の白米千枚田の「あぜのきらめき」で使用している「ペットボトル」約25,000本を借り受けて、市民の皆さんに作成・設置の協力をいただきながら、根上総合文化会館の芝生広場で能登地区の復旧・復興を祈念したイルミネーションを行った。辰口まつりでも、バルーンランタンを上げて能登の一日でも早い復旧・復興を願った。能美市みんなで復興・復旧を願い、取り組んできた。

・輪島市で35kmの競歩の全日本大会が開催されていたが、被災して会場が使えないということで、20kmの大会を開催している能美市で35kmも開催してほしいというご依頼を受け、来年3月の競歩の大会は、同じ日に20kmと35kmを開催する予定である。

○令和6年度事業・施策／方針・目的

・事業・施策の方針に7本柱があり、毎年5つの方針・目的を設定し、そのすべてが移住定住の促進につながるようにしている。5つの方針・目的に沿って、どのようなことをしているのか、今日は代表的な施策を皆さんに紹介していきたいと考えている。

○防災減災対策

・2年前の8月4日に大雨が降り、市内で大きな被害が出た。能美市内を流れている川で、直接日本海に注いでいる川は1本もないので、市内に降った雨をいかに手取川や梯川に流すかということが内水被害の抑制に繋がる。

・手取川宮竹用土地改良区と協定を結び、大雨警報が出た場合に、手取川からの取水を停止し、宮竹用水を宮竹排水として使えるようにした。約1年経過したが、大変効果があるということが実証されている。

・避難所等を示した紙のハザードマップを配付しているが、避難の時にスマートフォンを持って逃げられる方がほとんどだと思うので、スマートフォンで避難所等を確認できるよ

うにデジタル防災ガイドブックを作ろうと取り組んでいる。

・24時間365日、いつやってくるかわからない自然災害に対して、身体が不自由な人や高齢者等が取り残されずに避難できるように、個別避難計画の作成を進めている。

・能美市内に降った雨を田んぼに溜め、川の水が引いたときに流す、「田んぼダム」の実験を今行っている。本当に効果があるのか、どれだけ田んぼに影響や被害が出るかということ等を検証している。

・能登半島地震で、トイレに不自由したことや、水不足により哺乳瓶が洗えなかったことから、簡易トイレと使い捨ての哺乳瓶の備蓄数を倍に増やした。この他にも、備蓄する品物の数や種類の見直しを行い、大きな地震が起こっても皆さんにできるだけ安心して避難してもらえるよう準備をしている。

・耐震改修やブロック塀除去の補助額を上乗せしている。

・西川、熊田川は手取川の下流部に注いでいるが、手取川の水が増えると、水が「バックウォーター現象」で西川、熊田川に流れ込む。これを防ぐために、西川、熊田川に樋門を造って、水が戻らないようにしようとしている。また、しらさぎ団地辺りの西川の流域面積を倍にするような工事を行い始めている。

・2年前の大雨で一番被害が大きかった和気小学校周辺の川幅を広げるとともに、鍋谷川、館谷川が注いでいる梯川の川幅を広げることによって、水が梯川に注ぎやすいようにする工事も始まっている。

・今年は手取川の洪水が発生してちょうど90年という節目である。手取川のダムができたことによって、手取川の治水能力が上がり、8月4日の大雨でも手取川の被害はなかったが、引き続き大きな被害が起きないように、国や県の支援をいただきながら取り組んでいきたいと思っている。また、9月16日に手取川の洪水90年を記念したイベントを計画しているので、もしご興味があればご参加いただきたい。

・8月4日の大雨の教訓を生かせるように防災センターの展示も変えていきたいと思っている。今年も防災フェスタを開催するので、こちらにもぜひお越しいただきたい。

・N o m i メールや能美市公式LINEアカウントについて、ぜひ皆さんのご家族、ご友人にお友達になっていただくよう宣伝していただきたい。

○市民力・地域力の強化

・能美市は、市民力・地域力が大変高いところでありながら、最近では感染症の影響から人

流が制限されたこともあって、壮年団等、様々な団体の所属人数が減ってきている。もう一度活性化させるために、様々な取り組みを行っている。

・ふるさと愛を醸成するため、町会・町内会の絆をさらに深められるような取り組みに対して、補助を行っている。盆踊りのために浴衣を新しく買ったという町や、デジタルの取り組みを行うため、プロジェクターを買ったというような町もあり、それぞれの皆さんの町会・町内会でいろいろな取り組みを行っていただいている。

・能美市のことをしっかりと後世に伝えていくため、市史の編さんにも取り組んでいる。

・能美市のことを誇りに思ってもらうように、講演会や講習会、交流事業、イベント、文化祭、展示会、発表会などの開催を増やして交流を促進している。

・市民力、地域力を高めていくためには、健康でなくてはならないので、サンテをリニューアルした。サンテは、健康増進と子育て支援の拠点であるが、今までどちらが子育て支援でどちらが健康増進か、エリアが分かりづらかったため、リニューアルしてすぐ分かるようにした。2階の調理場に最新のIHクッキングを入れたので、ぜひ女性協議会の皆さんで、何か料理を作ったり、料理を楽しみながら和気あいあいと交流したりしていただければと思う。

・能美市立病院の健診センターがオープンした。また、人間ドックの助成額を上げたり、能美市立病院でDWIBS検査ができるようにしたり、能美市立病院を窓口としてPET検査を受けられるようにしたりして、健康維持を図ってもらえるよう取り組んでいる。

・最新の救急車も導入した。能美市のレベルでは、救急車の配備は3台で良いが、重篤な患者を金沢大学附属病院や石川県立中央病院に運ぶとなると、救急車が1台ずつ行ったきりとなる。万が一、救急車が足りないということ起きないように、最新鋭の救急車を入れて4台体制としている。

・地域共生交流館はこれまで高齢者の皆さんが多く利用されていたが、障がいをお持ちの方や子どもにも使ってもらって、広い年代の皆さんが交流できるような場所とした。

・のみバスは、今まで29人乗りの大きなタイプばかりだったが、里山エリアはもっとコンパクトなほうが安全であるということもあり、ワゴン車2台を導入した。

・健康ロードを徐々に整備している。駅が幾つかあるが、どんな駅であったかということを知るようにし、また、駅のあった場所に行ってもらえれば、その周辺にどんな施設があるかも分かるようにしようと様々な取り組みを行っている。健康ロードは通学路にも使われているので、街灯がないところは街灯をつけるようにしている。

・市内には小中学校が11あるが、築50年以上が面積比で35%を占めている。特に給食室が古かったので、まずは安全・安心、おいしい給食を提供するため、学校給食センターを新しくオープンした。

・狭くて古かった寺井サービスセンターを新しくした。そばに保育園や子育て支援センターがあるので、若い世代のお母さんが手続きをしに多く来られるのではないかと思い、子どもたちに楽しんでもらえるようなディスプレイの設置や、子どもが遊べるような場所も設けた。

・昨年の2学期から中学校の給食費を無償化し、3学期からは小学校も無償化とした。

・市内に15の公営保育園があったが、幼児教育をご希望される方が多かったり、古くなってきたりしたことから、まず福島保育園を民営化した。今度は湯野保育園と緑が丘保育園を民営化し、湯野こども園は湯野小学校の隣に、わかばみどりこども園は、緑が丘リサイクルパークの近くに新しく造っている。

・北陸先端科学技術大学院大学（JAIST）と沖縄科学技術大学院大学（OIST）が学業連携を結んだことを受け、OISTがある恩納村と能美市で子どもたちの交流を行おうとパートナー事業提携をした。今、能美市の中学校2年生が約20人、月曜日から3泊4日で恩納村に行っている。

○地域ブランドの確立

・市民の皆さんに、幸福度や暮らしやすさ等を調査したウェルビーイング指標によると、能美市の強みは「住宅環境」や「子育て」、「自然の恵み」であり、弱みは、「買い物・飲食」「遊び・娯楽」「移動・交通」であった。しかし「遊び・娯楽」では、市内には、観覧車やジェットコースターがあり、ホワイトタイガーもいる。「買い物」についても、最近、スーパーだけでなく、ドラッグストアが増えてきている。

・企業誘致がおかげさまで大変好調で、平成17年以来、35社を市外から誘致し、34社が工場の増設をしている。企業誘致のメリットとして、働く場所が増えるということだけではなく、人口が増えることや、市の税収が増えること等の効果があげられる。令和元年に初めて市税が90億円を超え、令和4年には過去最高となり、令和5年は90億円を超えなかったが、おかげさまで堅調に推移をしてきている。税収増加によって、老朽化した施設の改修や皆さんからのご要望に応える施策に使える財源が増える。

・IRいしかわ鉄道が全線開業した。これに伴い、能美根上駅の列車の接近音を「栄冠は

君に輝く」にした。学生等が電車や迎えを待っている間に勉強できるように駅前に「ノミスタ」を造った。能美根上駅の駐車場もよく満車となっているので、駐車場を広げて駐車料金の支払いに電子マネーも使えるようにする。

- ・根上学習センターに子ども宇宙科学室を造った。能美市で見える星のリアルな画像が貼ってあるほか、ウルトラマンや仮面ライダーの脚本家である佐々木守さんの功績が分かるような展示もしている。

- ・加賀産業開発道路沿いにある辰口フラワーハウスの跡地に道の駅的機能を持った施設を造ろうと思っている。

- ・いしかわサイエンスパークに企業誘致をしようと、県と一緒に取り組んでいる。

- ・東郷七里エリアで、マウンテンバイクに乗る人が増えている。マウンテンバイク愛好者と一緒に、もっと快適に多くの人たちに楽しんでもらえるような場所にしていこうと考えている。

- ・企業誘致が好調であり、住む場所が必要ということで、和光台5丁目を今販売している。

- ・和気の岩のドッグランが狭いので、リニューアルを行う予定である。

- ・東西連絡道路沿いの金沢大学跡地を購入し、周辺を開発していく予定である。

- ・わかば保育園の跡地が住宅地となり、好評販売中である。

- ・高級感のある部屋で絵付け体験できるように、KAM能美市九谷焼美術館 | 体験館 | をリニューアルしている。9月28日にオープンするので、ぜひご利用いただきたい。

- ・能美市内には5つの国指定の古墳があるが、西山古墳だけが未開発なので、今、一生懸命整備に取り組んでいる。

- ・ふるさと歴史の広場に車の乗り入れが可能なバーベキュー場を整備した。また、滑り台を1台追加して2台とした。これが功を奏して、休みの日になると多くの人でにぎわっている。

- ・根上フラワーセンターの跡地について、住民の皆さんと意見を交わしながら、ご期待に添えるような形で利活用したいと考えている。

- ・シーサイドプレイパークを造るとともに、インクルーシブ遊具を取り入れた公園も整備した。翠ヶ丘いこいの広場も大分老朽化をしているので、リニューアルしたいと考えている。

- ・吉原釜屋町が独自で住宅地の開発をした。下ノ江町、大成町についても、皆さんから開発してほしいというご要望がある。

- ・福島グランパークに総合商業施設を誘致するということが決定した。どのようなお店がほしいか、皆さんのご要望をお聞きしたい。また、商業施設ができることによって、女性の働く場所が増えることになる。

- ・シティプロモーションとして、様々な宣伝をしていて、シナモロールもその一つである。能登の子どもたちに野球をしてもらいたいと、松井さんもゴールデンウィークに来てくれた。

- ・「折り紙で作った電車の最多展示数」について、佐賀県嬉野市が1万9,000枚のギネス記録を持っていた。能美市でその記録を抜こうと、北陸新幹線県内全線開業が2024年3月であることから目標枚数を2万243枚と設定し、取り組んだところ、12万枚も折り紙が集まった。能美市の人口が5万人で、その倍以上の数である。審査の結果、8万2,034枚でギネス記録を更新した。この数値を覚えていただくため、「やったぜ、にっこり、の、み、し」という語呂を作った。令和6年度末まで市役所に折り紙を飾る予定なので、ぜひ見に来ていただきたい。

- ・ふるさと納税の返礼品の充実にも取り組んでいる。

○ゼロカーボンシティ

- ・2013年度のCO₂排出量に対して、2030年度はその半分に、2050年度までにゼロにしていこうと、様々な取り組みをしている。

- ・農業はゼロカーボンシティに直接つながるので、いかに田んぼを守っていくか、また木を育てていくかということが大事であり、取り組みを行っている。

- ・ご要望により、生ごみ処理機やコンポストの補助を設けた。

- ・給食センターで木質ペレットを使用している。これによってCO₂を削減し、循環型の社会となる。

○インクルーシブシティ構想

- ・デジタル田園都市国家構想交付金をいただきながら、デジタル化に取り組んでいる。

- ・デジタル公民館のために、市内にある82の公民館すべてにWi-Fiをつけた。高齢者はいきいきサロンやスマホ教室に出るために、皆さんのような年代の方はeスポーツを体験するために、子どもたちにはChrome bookを持って、勉強するために公民館に来てもらって、公民館を多世代の交流の場とする。

・公民館は避難所になることが多いので、マイナンバーカードによる避難所チェックインを行おうと進めている。また、監視カメラを設置し、子どもたちが通ったかどうかや、公民館の付近の川がどれだけ増水しているか等をチェックできるようにしたいと考えている。

・公民館でオンライン診療も行う。高血圧や糖尿病の場合、月に1回かかりつけ医に行つて診察を受けて薬をもらう必要がある。それを公民館でオンライン診療を受けることによって、病院や薬局に行かなくても薬をもらえるようにしようとしている。ただ、これには様々な課題があるので、市内の5か所を選定し、そこで検証をしながら、随時広げていきたいと考えている。

・一人暮らしを対象に毎年、秋頃に民生委員・児童委員、ケアマネジャーがお宅に訪問し、服薬状況や病状をチェックして、紙で情報更新していたが、それをデジタル化し、適時更新できるようにしようとしている。

・東日本大震災のときに多くのカルテが流され、診療情報がわからなくなってしまうということが発生し、電子カルテ化が広まった。今回の能登半島地震でも、紙のカルテは押し潰されてしまったが、電子カルテがあったため、能登の方が避難先でも薬をもらうことができた。ただ、診療情報等にはデリケートな情報も含まれるので、どこまでどの情報を誰に開示するか、きちんと整理しながら行おうと、今取り組んでいる。

・昨年もIoT家電の話をしたが、将来的には、気象警報や能美市からの避難指示等もIoT家電が知らせるようにしようとしている。

・二種免許を持っていない人たちに移動に困っている人を助けてもらおうと、ライドシェアの仕組みを今考えている。

○市民ファースト・現地現場主義

・市民の皆さんの様々なご意見を聞き、またこちらが考えていることをお伝えできるようタウンミーティングやカフェトークを行っている。

○能美市誕生20周年・北陸新幹線県内全線開業

・来年の2月1日に能美市誕生20周年を迎える。30年、40年、50年とずっと発展できるように、様々な取り組みをしていきたいと思っているので、ぜひ皆さんからいろいろなご提案をいただきたい。

・北陸新幹線が敦賀駅開業をしたが、敦賀駅で乗り換えるのが大変不便とのお声をいただいております、一日も早く太平洋側につながるよう働きかけていきたい。また、能美市内には、新幹線は通っているが駅がないので、小松駅で「となりは能美市」という看板を作って、宣伝している。ぜひ見ていただければと思う。

3) 質疑応答、意見交換

質問・意見 1

【参加者】先日、福島町で実施した福島グランパーク商業施設に関するアンケート調査の結果が今月各家庭に配られた。一番人気はスーパー、2番目はドラッグストアであった。正直、ドラッグストアはこれ以上いらない。和食、洋食は結果に上がっていたが、ハンバーガー店はなかった。妹からは、24時間のジムがほしいと言われている。若者に人気のお店ではなく、おじいちゃんおばあちゃんでも行けるようなコーヒーショップがほしい。

【井出市長】アンケート結果を見せてもらいたい。

質問・意見 2

【参加者】新しく職が変わって、全国にも行くので、能美市をもっと知ってもらうために、名刺の裏面に能美市を紹介する文面を自分なりに作って掲載した。ただ、素材がインターネットから拾ったものしかなく、例えば地図であれば、能美市だけが表示された石川県の地図が欲しかったが、他の市町も表示された地図しか見つけることができなかった。能美市をPRできる素材集があったら良いのではないかなと思う。能美市には、多くの会社があるので、会社の方にもその素材集を使って、能美市をPRしてもらえようお願いします。良いのではないかな。例えば、自分の好きな能美市のスポットを紹介できるよう、蟹淵や根上グリーンビーチ等の素材があれば、一人ひとりが能美市のPR大使になってくれるのではないかなと思う。

【井出市長】名刺用の素材で良いか。サイズが違っていると使い方が変わる。拡大すると文字が大きくなったり、縮小すると文字が小さくなったりするということが生じる。良い案なので、

考えてみたいと思う。名刺サイズのサンプルをいくつか作って、選んでいただくか、それともそのほかの方法とするのか、どんな形が良いのか考えてみる。

質問・意見3

【参加者】地域共生交流館を令和8年度に建て替えるという話を聞いているが、そこで就労支援として障がい者を雇用する予定はあるか。地域共生交流館まつりをこれまで2回開催しているが、その時にいつもそこで働いている方が安心して遊びに来られていた。なぜか考えると、お祭りで人が多くても、いつも来ている場所だから安心して来られているのではないかと思う。G-Hillsができたときに、そこで障がい者就労支援ができるのではないかと期待された方がたくさんいたという話を聞いていたが、そうならなかった。地域共生交流館では、それができるのではないかという希望の声を聞いている。

【井出市長】能美市が直接運営するのではなく、どちらかにお願いしようと予定しているので、その事業者と相談しながら、検討していきたい。

質問・意見4

【参加者】ウエルビーイング指標の市民が望む遊ぶ場所というのは、津幡町や加賀市、小松市にあるような屋内で子どもたちが遊べる大きな施設、お弁当を持って行って、一日遊べるような施設のことを言っているのではないかと思う。

【井出市長】そのような声はたくさんお聞きしている。能美市内には児童館がたくさんあるが、サイズが小さい。大きな施設がほしいという声は聞いているが、そういった施設以外にも他の施設がほしいという声や、先ほど申した通り、学校の老朽化が進み、建て替えていかなければならない事情がある。浜小学校と根上中学校に最初に取り掛かる必要があり、莫大なお金がかかる。足りないものがあるということも、ご要望がたくさんあることもわかっているが、順番にやっていきたいと思っている。ご要望としてしっかり受け止めておく。

質問・意見5

【参加者】2年前の水害の後に寺畠町で防災センターに体験しに行こうということになっ

たが、火事などの体験はできるが、水が流れているところを歩く体験はできないので、もったいなく感じた。水が流れているところを歩く危険性を皆さんに体験してもらえるような施設にならないか。

【井出市長】 水害の教訓をしっかりと伝えるような施設にしたいというような思いもあるので、一度、水を流れているところを歩く体験ができる施設は他にあるのか、他の施設を調べてみる。

質問・意見6

【参加者】 能美市のどこでもよいが、世界的な家具量販店を誘致してほしい。北陸3県にないので、遠方からお客さんが来るのではないかと思う。

【参加者】 誘致するなら、県内にないハンバーガーショップを誘致してほしい。

【参加者】 前述ようなお店ができると能美市の人も喜ぶが、市外からも多くの人が来るようになるので、良いのではないか。ただ、福島グランパークの土地では狭い。

【井出市長】 参考にさせていただく。

質問・意見7

【参加者】 粟生に北鉄バスが通らなくなって、小松に飲みに行けなくなった。タクシー会社もなくなってしまっている。のみバスは少しよくわからない。子どもが小松特別支援学校を今年で卒業して就職というときに、小松界限で職場を探そうとしても運転ができないので、足がない。親が送り迎えをしなければならないのは、違うのではないかと思うので、交通の便をどうにかできないか。

また、ジムの話もすると、クアハウスの料金が上がった。近所にもジムはあるが、働いている人には時間的に不向きである。近場に良いジムがなく、小松市まで行かなければならない。24時間とまでは言わないが、近くにもう少し安価に気軽に通えるようなジムが有ったらいいと思う。サウナもついていると嬉しい。昔のクアハウスには、風呂やジム、プール、サウナもあったが、民営化されて料金が上がってしまった。

【井出市長】 公共交通機関は費用対効果の問題がある。マイカーが多くなり、利用者が少

なくなったことで今の状況となっている。のみバスも皆さんの声を聞きながら、便利になるようにダイヤやルートを見直ししていつているが、パーソナルユースとなると、ライドシェアを考えていかなければならない。もう少し待つてほしい。

スポーツジムを希望する声は多く、誘致もしているが、なかなか具現化しないということは、それだけペイできる利用者がいないということではないかと思う。ただ、声はあるので、なんとかしたいという思いはある。もう少し、期待して待つていてほしい。

4) 閉会